

『第9回地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミット in 山形県南陽市』

【オープニング&サミット開会】

『第9回 地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミット in 山形県南陽市』の司会は、前回と同じく、首長連合代表代行・滋賀県湖南市の谷畑市長、首長連合事務局・佐賀県小城市の坂田啓子さんのダブルキャスト。開催地の南陽市に敬意を表し、カップラーメンの被り物で登場。

オープニングアトラクションは、地元南陽市のご当地ヒーロー・南陽宣隊アルカディオンショー。南陽宣隊アルカディオンには現在23人が在籍、そのうち12人が公務員。昨年の地域に飛び出す公務員アワードで「増殖するご当地ヒーロー賞」を受賞したほか、内閣府の「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」において、内閣府特命担当大臣表彰を受賞。

今回のサミット出席首長は、首長連合加入61人のうち8人。

北海道東神楽町 山本進町長、山形県南陽市 白岩孝夫市長、山形県山形市 佐藤孝弘市長、岐阜県飛騨市 都竹淳也市長、滋賀県湖南市 谷畑英吾市長、岐阜県岐阜市 柴橋正直市長、大阪府富田林市 吉村善美市長、宮崎県木城町 半渡英俊町長。

要約筆記は、一般社団法人 福島県聴覚障害者協会によるUDトーク。発言内容をリアルタイムで文字化し、会場のスクリーンに投影した。

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

皆さんこんにちは。南陽市のウェルカムドリンク「山形パインサイダー」はいかがでしたか？

このドリンクは、山形のソウルフード、発祥は昭和30年代。南国のフルーツ、パイナップルへの憧れから誕生したといわれておりますご当地サイダーでございます。そして、テレビ番組「出川哲郎の充電させてもらえませんか？」で、中居正広さんが「すげえうまい！」と賞賛された代物だそうでございます。

さて、本日はようこそ、ここ「菊とぶどうといで湯の里」山形県南陽市へお集まりくださいました。

第9回地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミットの開会でございます。

【地域に飛び出す公務員を応援する首長連合代表挨拶 三重県知事 鈴木英敬 ビデオメッセージ】

皆さんこんにちは。代表を仰せつかっております三重県知事の鈴木英敬です。

この度は別の公務がありまして、このような形で皆さんへのご挨拶となりましたことを心からお詫び申し上げます。首長の皆さんはじめ、関係の皆さんには、ご参加いただくことに心から感謝申し上げます。

また白岩南陽市長はじめ南陽市の皆さんには、受入れのご準備を一生懸命やっていただき、この歓迎体制、おもてなし体制を整えていただきましたことに心から敬意と感謝を申し上げます。

南陽市は、全国で唯一、三重県の伊勢神宮から伝わる太々神楽があるほか、東北の伊勢・熊野大社もある。今回、三重県とゆかりのある場所でサミットが開催されることも大変嬉しく思う次第であります。

この首長連合は平成 23 年 3 月にスタートして 8 年半がたち、61 名の方にご参加いただいて、ネットワークは徐々に拡大している。そして今回の第 9 回サミットでは、地域に飛び出す公務員の皆さんの相棒であります市民の皆さんからご意見を聞く、そういう取組を初めておこないます。

地域に飛び出す公務員の皆さんは業務時間内だけでなく、業務時間外も含めて、本当に幅広い視野で市民の皆さんとともに汗をかき、議論をし、物事を前に進めていく、そういう姿勢が重要である。

本日まで参加の首長の皆さんにおかれましては、ぜひ首長同士でそういう思いを確認・共有する場としていただきたい。公務員の皆さんは、改めて志高くやってくんだ、地域に飛び出して頑張ってくんだ、そういう思いを確認する場にしていだければと思う。

今回のサミットが、皆さんのご尽力により成功裏に終わられますこと、またそれぞれの地域で皆様にご活躍いただきますことを心から願ひまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

【開催地首長挨拶 山形県南陽市長 白岩孝夫】

皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました南陽市長兼ラーメン課主事補の白岩と申します。

この首長連合の提唱者である椎川地域活性化センター理事長、首長の皆様、多くの公務員の皆様、そして一般の皆様、北は北海道そして南は九州から、このみちのく東北の山形県南陽市に足をお運びいただき、心から歓迎を申し上げます。今年は本当に災害が多い年で、参加ができなくなった方もいらっしゃいます。被災された地域には心からお見舞い申し上げます。

さて、この南陽市には、代表的な偉人・結城豊太郎さんがいらっしゃいます。戦前、林銑十郎内閣のときに、大蔵大臣、あるいは日銀総裁なども務められた方。この方が言っていた言葉、それは「故郷（ふるさと）は国の本(もと)なり」という言葉だった。結城先生は要職を務める傍ら、水不足を憂えて水道を引く事業をなさったり、あるいは、故郷をつくるためには人を育てなければいけないということで、文庫を開設したり、塾を開設して若い人が勉強できる環境を整えられた、南陽市にとっては大変大きい存在。その結城先生の言葉「故郷は国の本なり」、そして「ふるすとは人材作りだ」という精神は、まさしくこの「地域に飛び出す公務員を応援しよう」という考えに合致するのではないかと思う。

先ほどのアルカディオショーでは、南陽市のことがいろいろ紹介された。赤湯温泉、三重県知事からもご紹介がありました熊野大社、美味しいさくらんぼ、ブドウ、果樹、そういった様々なものがある地域。

山形県といえば、さくらんぼ県。南陽市でももちろん作っており、今年の山形県のさくらんぼ品評会で最優秀賞を取ったのは、南陽市の生産者の方だった。山形県で 1 番ということは、日本で 1 番。日本で 1 番ということは世界で 1 番。世界で 1 番ということは宇宙で 1 番ということで、ぜひ南陽市のさくらんぼ、来年のふるさと納税のお申し込みを心からお待ち申し上げます。

また、7 月には山形県の辛味噌ラーメンがテレビに出て、今は 2 時間待ちの行列となっている。夕方であればスーッと入れるので、ぜひ食べていただければと思う。南陽市のラーメンは、どこに行ってもハズレがない。事実として、全部の店が美味しいんだということなので、機会がありましたら巡っていただきたい。

今日は本当にこういった貴重な機会をいただき、皆様に感謝申し上げます。また三重県の事務局の皆さん、そしてスタッフの皆さんにも合わせて感謝を申し上げます。この首長連合サミット in 山形県南陽市が有意義なものになりますように頑張っていますので、本日はどうぞよろしくお願い致します。

【首長連合提唱者挨拶 一般財団法人地域活性化センター理事長 椎川忍】

提唱者などというおこがましい紹介をいただきました。平成 20 年に「地域に飛び出す公務員ネットワーク」を立ち上げ、その 3 年後、やはり組織として「地域に飛び出す公務員」を応援していただけなければ、なかなか変わっていかないだろうということで、大森彌先生や様々な識者の方にお話をし、ぜひそういうものを立ち上げたらというご指南もいただいた。そこで首長さん方に呼び掛けて、当初は 40 名くらいの加盟だったが、現在は 61 名。大変にありがたいことで、感謝以外何もございません。

地域に飛び出す公務員ネットワークの会員は約 2500 人おられる。ネット上での活動が中心だが、地域でオフ会をやったり、そのネットワークで築かれた人間関係で様々な仕事をしている方もいらっしゃる。大変ありがたい、これも感謝であります。

平成 20 年、私は初代の地域力創造審議官だった。増田寛也総務大臣から、定住自立圏構想を制度化してほしいと言われた。現在、山形県内ではすべての地域で定住自立圏ができている。ただ、私はそういう制度を作っただけでは、本当に地方への人口移動が起きないのではないかと考えて、平成 21 年に地域おこし協力隊を作らせていただいた。今日も、もしかしたらこの中にいらっしゃるかもしれない。今や 5000 人規模になり、私たちが開催する全国どこの会合にも地域おこし協力隊の方が参加して下さるようになった。地域に飛び出す公務員ネットワークも、地域おこし協力隊も、本当に長い間継続して活動していただいていることに深甚なる敬意を払いたい。

サミットも来年は 10 回目という区切りになる。地域に飛び出す公務員ネットワークは 13 周年。地域活性化センターは 35 周年となり、私は 67 歳。70 歳に向けて一つ何か区切りをつけたいという思いがあり、この地域に飛び出す公務員ネットワークの本を作ることにした。今、編集委員の方、山形の後藤くんほか数名をお願いして、執筆者の選定をしている。昨日から Facebook で公募も始めた。紙を一切使わないで編集企画を進め、本を作ろうということで、出版社はだいたい決めてある。3 年くらいかかっても、とにかく 100 人の地域に飛び出す公務員を紹介する本を作る。ご存じのように、地域おこし協力隊の本は既に 2 回出している。地域に飛び出す公務員も世の中に PR できるように頑張っていきたいと考えている。

地方創生が国民に浸透していないのか、地域創生と言った方がいいかもしれないが、市民の皆さんにその意味が伝わっていないのではないかと。それから、災害多発で、昔のような地域づくりはなかなかできないかもしれないけれど、最低限のコミュニティの絆というものが災害の時に必要となる。それを考えると、地域に飛び出す公務員の精神というものは、これからますます重要になると思う。様々なところでそういうことを書かせていただいている。

ぜひ、この地域に飛び出す活動が全国様々な地域で盛んになって、役場もどんどん変わっていく、そういう日本になっていければいいなと、そういう思いを込めて本も作ってきたい。今後とも地域に飛び出す公務員ネットワーク、そしてそれを応援していただける首長連合、特に今日ご出席いただいた首長の皆さん、よろしく申し上げます。

【地域に飛び出す甲子園 ～相棒の意見を聞かせてほしい～】

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

全国の様々な立場の公務員が、日頃から地域に飛び出して活動している。これをさらに後押しするため、「地域に飛び出す甲子園」を開催する。2年前の甲子園では、首長と公務員がタッグを組んで活動を発表した。今回は、熱い思いを持って地域に飛び出している公務員と、その公務員と共に活動する相棒がタッグを組んで、地域での活動を発表する。発表団体は、首長連合の加入自治体から選ばれた3組。

■活動発表1「入院している子どもたちを元気づけるプロジェクト」

長野県職員 田中英二：

皆さんこんにちは。長野からはるばるやって参りました田中と申します。

私の活動は「入院している子どもたちを元気づけるプロジェクト」で、平成23年から始めて約10年になる。よしもとクリエイティブエージェンシーのプロのバルーンアーティスト・松下笑一さんとボランティアで全国を歩かせていただいている。10年間で全国28ヶ所、去年は熊本県、福岡県、岡山県、いろんな所を回ってきた。

今日は松下笑一さんも来る予定だったが、明日仕事で長崎に行かなければいけないということで、残念ながらお越しいただけなかった。この松下笑一さんは1830種類もバルーンを作れる方で、全国大会で優勝している。私は松下笑一さんの56番目の弟子。58番目の弟子が、吉本興業の村上ジョージさん、60番目が、さんちゃん。ですので私は村上ジョージさんより兄弟子。

このプロジェクトで28ヶ所を回ってきたが、本来、吉本興業さんをお願いして興行をしていくとなると、おそらく今まで掛けたお金は1000万円以上になると思う。それをボランティアでやっていただいているので、吉本興業さんと松下笑一師匠には、本当に頭が上らない状況。今日は、松下さんのビデオメッセージをいただいているので、今からご覧ください。

吉本クリエイティブ・エージェンシー所属 松下笑一 ビデオメッセージ：

吉本興業のバルーンアーティストの松下笑一と申します。

長野県の田中英二さんと「入院している子どもたちを元気づけるプロジェクト」を番外編も含めて、28回行ってきた。

すみません、今日は山形に行けないので、事前にいただいた質問にはビデオレターでお答えします。公務員とプロジェクトをやってきて苦労した点、プロジェクトの失敗談、プロジェクトの工夫した点、公務員を絡ませてよかった点、今後本制度に望むこと、首長に望みたいこと、何か参考になる点があればということで、いろいろ質問をいただいている。

7、8年前に、吉本興業で「あなたの街に住みますプロジェクト」というのが始まった。47都道府県に芸人とマネージャーを住ませて、各地域を盛り上げていくというプロジェクト。それが始まった時に、田中様の方から「自分の娘さんの同級生の子が車で事故にあって入院してるから、その子を励ましてほしい」ということで始まったのが今回のプロジェクト。元々がこちら側から公務員の方と一緒にしたいということで始まった企画ではないので、公務員の方を絡ませて良かったかに関しては、正直何と答えていいかわからない。ただ、田中

様がすごく真面目で、本当に一生懸命な方。ボケて言ったこともすべて「そうなんです」みたいな感じで真剣に捉えられるので、ボケれない。それくらい真面目な方。

いつしか田中様に「芸人になりたい」（笑）という気持ちが沸々と湧いてきて、2年くらい前だったか、公務員やめて芸人になると言い出した。本当にわがままを言うことのように、やめといてくださいっていくら言っても聞かない時期があった。こういう人前に出る仕事なので、大きな夢を見られたのだと思うが、実際給料的なお話をリアルにさせていただいた。僕の給料3万でしたとか話をした結果、半年ぐらいかかってやっと目が覚めた。そこはちょっと苦労したところだった。

こちらがすごく気を使うのは、吉本興業の芸人のスケジュールを押さえているので、交通費などがかかること。プロジェクトを始めた当時、私は横浜に住んでいた。今は福岡に住んでいる。そのため、交通費や材料費がかかったりして、吉本の方も100%ボランティアという形にはならない。それを田中様が自分のお小遣いを削って毎回呼んでいただいている。田中様のポケットマネーでこの活動ができていますので、そこが本当に心苦しい。このプロジェクトをやっていく上で、今後の課題や望むこととしては、助成金のようなものがうまく活用できて、皆様方がご負担にならないように、こういった活動が広がっていけば良いと思う。

プロジェクトと一緒にやっていくには、相性が良くないといけない。田中様と僕は、すごく相性がよかったので長く続けてくれた。今後も、30回、50回、100回と、一緒に日本中を盛り上げていければ良いと思う。もちろん田中さんが公務員を続けながら。

実は私、博多華丸大吉の弟子で、師匠達もこのプロジェクトにいつか一緒に行きたいとおっしゃっている。スケジュールの都合でなかなか行けないが、毎回報告はさせてもらっている。サプライズ的な感じにはなると思うが、いつか師匠と共に、田中さんと3人で一緒にパフォーマンスできれば良いと思う。以上、松下笑一でした。ありがとうございました。

長野県職員 田中英二：

松下さん、ありがとうございました。

せっかくなので、ここでバルーンアートを披露させていただきます。普段は40分のショーで回っている。本来は40分、50分くらいかけないとバルーンの良さは伝わってこないが、今日は3分に縮めてやってみたい。先月1ヶ月間、週末ずっとイベントに出ていた。普段はサラリーマンしてるので、週末の休みがない。僕は、ハーモニカを吹きながらバルーンアートをするという特技があるので、それをやってみたい。

（♪ハーモニカ演奏&バルーンアート実演）

こんな感じです。次に弾く曲は、世界中で有名なので、また聞いてください。そしてまたバルーンを作らせていただきます。

（♪ハーモニカ演奏&バルーンアート実演）

（ネタ披露）

最後となりますが、私のふるさと長野にちなんだ物を作ってみたいと思います。
何ができますでしょうか。長野にちなんだ曲を弾きながら作ってみたいと思います。

(♪ハーモニカ演奏&バルーンアート実演)

(パン！)

さあ何が出てきますでしょうか。はいアルクマです。

皆さんご存じですか？このアルクマ、先週のゆるキャラグランプリ全国大会で優勝しました。これでくまモンたちのお仲間になれると思うので、皆さん長野に来たら、アルクマいっぱい買ってください。ぜひよろしくお願いします。

そして今日、私が着てるのはラグビーのTシャツで、この仕掛け箱を見ていただくと「One for all, All for one」と書いてある。よくラグビーで使われる言葉で、この意味は「1人は皆さんのために、皆さんは一つの目標のために」ということ。

今、長野県は台風19号の災害の関係で、非常に被災された方もたくさんいらっしゃる。東北の方も被災された方がたくさんいらっしゃると思う。本当にお見舞い申し上げます。長野もこの台風の災害を乗り越えて、復興という目標に向かって皆さんと一丸となって頑張っていますので、皆さんぜひご支援をよろしくお願いいたします。

たなびーでした、ありがとうございました。

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

田中さん、ありがとうございました。手元の時計では3分23秒オーバーしております。とても熱のこもった発表をいただきましてありがとうございます。もう一度大きな拍手をお願いします。

司会（佐賀県小城市職員 坂田啓子）：

ありがとうございました。こどもたちも勇気づけられてると思いますね。

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

また松下さんからのメッセージも素晴らしいものがありました。

それでは続きまして、長野県の魅力発信活動を行うWRNの皆さんです。よろしくお願いいたします。

■活動発表2「WRN オリジナル楽曲作成・配信等による長野県の魅力発信活動」

(ラップで登場)

WRN 長野県職員 宮嶋拓郎：

私達は長野県 PR 集団の WRN と、株式会社 GAKUMO（以下「GAKUMO」）の上野洋輔といいます。

WRN は県の職員によるヒップホップ集団で、GAKUMO の上野さんが我々の活動支援してくれている。今日は、公務員が飛び出すこと、公務員ってやばいんだねという我々の活動の理念にある考え、WRN と GAKUMO さんでやっている実験のこと、民間企業が求める公務員の役割についてお話したい。

WRN というのは We Respect Nagano の略で、愛する長野県の魅力をあらゆる方法で発信する公務員ラッパーを中心としたクリエイター集団。先ほど披露したオリジナルの PR 楽曲の作成や YouTube での配信のほか、各種イベントへの出演、長野県の魅力を PR するためのオリジナルのアパレルを Web ショップで販売するなどしている。概要は GAKUMO の上野さんから説明します。

株式会社 GAKUMO 上野洋輔：

株式会社 GAKUMO は、芸能プロダクションです。

今このご時世、情報発信、YouTube だったり個人活動がすごく目立ってきていて、情報発信で個人も企業も公務員も同じ立場の中、公務員さんが情報発信したという事例が無くて、彼らの YouTube は業界の中でわりと注目されている。彼らにしか出来ない県方式を活用したおかげで、一般民間企業ができないようなテレビ信州のドキュメンタリーだとか、いろんな恩恵にあずかっている。彼らの事例をもとに、公務の仕組みをもっと活用できたらいいんじゃないかと思っている。

WRN 長野県職員 宮嶋拓郎：

GAKUMO と WRN は、これまで、共催してアイドルのライブ配信による長野県魅力発信イベントをした。また、現在はウインタースポーツの聖地長野の魅力を発信するイベントを計画中。

今日は、我々が何をしてきたかということよりも、どのような考えでこのような活動をしているのかということをお場で聞いていただきたい。

我々は、今は長野県で 2018 年頃にできた制度に承認をいただいて活動しているが、2015 年から自発的に地域に飛び出すということを課題意識を持ってやっていた。メンバーの中には「公務員のメリットを 120%生かして公務員組織の中ではできないことをする」という意識があった。我々が今、最大限活用している公務員のやばさ 3 つを、そこに至った理由として挙げたい。

公務員ってやばいんだね。

ラッパーらしく韻を踏んでみましたけれど、公務員のやばさ。

我々中心メンバーでも、農業、林業、環境、教育といった専門的な分野を横断しているんな事業を行っていること。

いい意味でも悪い意味でも世間の目が向きやすいこと。

マスコミとの距離が非常に近いこと。

これはよくよく考えれば、総合商社もびつりのかなりの大企業じゃないかなと。

ただ、公務員組織では公平性が無い事、奇抜な事、組織決定がされていない事はやりづらい風潮があっ
てできない。その結果、メリットを持っていながら、ターゲットが不明確だったり、ちょっと地味だったり、なかな
か若者に響かないダサイところがあったり、トレンドについて行けないような、スピードがないという事を感じ
ていたので、自発的にいろいろ取り組んでいる。

我々目線から見ると、公務員の今と世の中の今には、こんなずれがあるように思う。

我々と上野のやりとりは、基本的に SNS。活動に係るお金のやりとりは楽天 pay。マスコミの方との飲み
会もインスタのダイレクトメール。

長野県も公式 SNS を作っているが、公務員がやると誰の目に留まってるか、受け手の反応を分析してい
るかとか、試しにやって反応見てみようというテストマーケティングみたいなことがしづらい。

手続き重視で結果にフォーカスしていないところに疑問を感じながら、地域に飛び出して公務員のメリット
を生かしながら、できるだけ世の中のスピードについていけるような活動を、という問題意識を持ってやってい
る。

これが GAKUMO と我々がやってる実験と称していますが、SNS です。

YouTube へのオリジナル楽曲の配信、長野県の PR 楽曲オリジナルで今裏で流れてますけども、15 曲
以上になっている。こちらがInstagramを使った魅力発信や Web ストア。

こういったことが、今の世の中タダで、素人でもできるんだよっていう事を実験している。

あと、地域のバラエティ番組に出て歌を歌ったり新聞に出したり、我々でメディアに発信する企画を作ったり、
またイベントに出演したりということもやっている。我々が世の中のスピード、トレンド感を公務員組織に知ら
せるための橋渡しみたいな事になると考えている。

株式会社 GAKUMO 上野洋輔：

彼らはラップ、ヒップホップ、芸能、アーティストという自分たちの好きな分野にフォーカスしているが、企業目
線と言うまだない市場、価値の提供先は公務の中にあると思っている。もともとの信頼値っていうのは、公
務員という段階でぶれがない。一般企業がそこに行くまでは、相当の努力だったり、もしくはそこまで辿り着
けない前例がある。

一方で、加速感が弱いので、そこを上手く掛け合わせることで、新しい価値を創造していきたい。その代表
例として、我々が来年（2020 年）の 2 月に長野県のグレンデを一つ貸し切って、プロスノボ協会さんと
一緒に 3 者でイベントを企画して、それをまた 1 つのあり方として提示したいと思っている。仲間を募ってい
るところなので、ご協力をよろしくお願いします。

WRN 長野県職員 宮嶋拓郎：

最後に、我々が感じている思いを話します。

公務員の仕事は多岐にわたるので、個人や組織が民間企業ではなかなかできないネットワークを持っている。
ですから、我々が地域に飛び出して、いろんな能力がある人達を繋ぎ合わせて、関係作りをして地域

にネットワークを作るといふ役割が担えるんじゃないかと考えて始めています。
以上です。ありがとうございました。

司会（佐賀県小城市職員 坂田啓子）：

ありがとうございました。第1回目のアワードのときに、長野県塩尻市の山田さんに大衝撃を受けたところですが、また長野県に衝撃を受けました。

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

長野県すごいですね。ありがとうございました。

では、最後に山形市の後藤さん、「西山形の酒を造る会」の中川さん、佐藤山形市長、よろしくお祈りします。

■活動発表3 「西山形の酒を造る会」

山形県山形市長 佐藤孝弘：

今日は、山形市の西側にある、西山形地区の「酒を造る会」といふ地域の活動を紹介します。

本日参加している後藤好邦さんは市職員で、皆さんご承知の通り地域に飛び出しまくっているが、その後藤さんをはじめ、複数の市職員がかかわっている取組が「西山形の酒を造る会」の活動です。

まずは後藤さんから「西山形の酒を造る会」の活動を、市職員がどのように関わっているかも含めてご紹介をお願いします。

山形県山形市職員 後藤好邦：

西山形といふところは山形市の西部にあり、もともと酒米と湧水が取れる場所で、そこに中川さんのお酒が大好きなおじさんがたくさんいる。地元のものを使って自分の飲みたい酒を造りたいといふことで、酒蔵さんに米と水と西山形の人々の思いを持って行き、一方で1口1万円の会員を募り、その対価としてできたお酒を酒合瓶で8本配布する。そして、その売り上げを地域の活性化に繋げるという6次化のようなことを地域の方々が主体的にやっているところが特徴です。

これが「西山形の酒を造る会」のお酒で、柏倉門傳といふお酒。もともと柏倉と門伝といふ二つの地区があり、山形市に合併する前は柏倉門傳村だった。この名前を地域作りに生かしたい、という思いがネーミングには込められている。私にとっては、十四代より美味しいお酒なので、1度騙されたと思って飲んでください。

お酒の美味しさだけでなく、ストーリー性や会員限定のお酒という希少性、そういったものが評判を呼び、最初314口だったものが13年後に初めて1,000口を超えた。今年もおかげさまで1,000口を超え、山形新聞にも大きく取り上げていただいた。

山形県山形市長 佐藤孝弘：

柏倉門傳は、フルーティーで非常に飲みやすく、女性にも喜んで飲んでいただけるようなお酒で、私も毎年、買わされてるんじゃないかと買っています。

今日は、西山形地区で地域として取り組んでいただいている中川さんから、この取組について、市の職員が関わっていることの影響なども含めておっしゃっていただければと思います。

西山形の酒を造る会 中川源雄：

今年で15年目です。始めた当初は私も50代だったんだけど、20名ぐらいのメンバーの平均年齢は73、4歳になるかなってということで、ちょっとエネルギー不足みたいな感じもします。

当初は、お酒を作ること自体が目的ではなかった。私ら農家で7人ぐらいのグループを作って、月1回ぐらい集まる会があったんですが、やっぱり男7人が揃えば酒がないと話が進まない。

その酒のラベルを見て、自分たちのラベルで飲んだほうが脳も活性化するし、お喋りも上手になるんじゃないかなということが始まりだったんです。

そこから後藤くんたちが仲間に入って来て、若い男性も若い女性も連れてきてくれるものだから、集まりがますます活気づいたって嬉しさがありました。

今までは公務員に我々が頼むという立場みたいな感じだったけど、同じ膝を交えて地域の事をどうしようかなってみんな話合う機会も増えて、とても嬉しく思っています。

山形県山形市長 佐藤孝弘：

このような形で、本当に良い形で続けているというのが何よりだと思う。

これからも頑張っていたきたいと思っているが、続けていくためには、やはり皆さんにこのお酒を買っていただきながら、さらに仲間も増やしていかなきゃいけない。そうした観点から、後藤さんからもう一言いただければと思う。

山形県山形市職員 後藤好邦：

西山形の皆さんからたくさんのお話を教えていただいたので、私なりに飛び出すメリットみたいなところで説明をさせていただきたい。

最初に参加させて欲しいとお願いに上がったときに、酒を造る会の清石会長の「地元の役所に休日まで地域のことを思って活動している職員がいるとは思わなかった。その事が何より嬉しい。」という一言が、今でも励みになっている。公務員が地域に飛び出すだけで地域の方が喜んでくれる。逆に、公務員が地域に飛び出す事によって、地域の方々もモチベーションが上がっているんじゃないかなと、私は感じている。

そういったところから、毎回のように行事に参加させていただいている。私の1番の役割は、こういう場で情報発信させていただく事で、今1,000口のうちの私1人で160口売らせていただいている。

160口売っても私は1円もいただけていないが、100口越えたときに初めて慰労会に呼んでいただいた。おそらく、7~8,000円相当のお料理をごちそうになったと思う。

なぜこういう活動が大事かという、役所の職員は住民の思いやニーズを知る直接的な機会をなかなか持てないが、お酒を飲みながらいろいろなことを語り合う事でそれを知ることができる。

また、普段から住民の皆さんとの信頼や地域との繋がりを作れる。今、西山形にある廃校の担当をさせていただいているが、信頼関係があれば、仕事も進みやすいと感じている。

もう 1 つは、田植えとか稲刈りに一緒に参加して、子どもに貴重な機会を提供できるということ。手植えとか、もうなかなか自分の子どもに味あわせることができないと思うが、この活動を通して経験させてあげられる。その点でライフにも良い影響が出ている。私なりの考えとしては、地域活動をライフに還元する 1 番の方法はやっぱり子どもへの還元で、それがワIFEへの還元になると考えている。私はワークライフコミュニティバランスという言葉を使っている。コミュニティの活動をワークやライフに還元することが大事だと思うので、これからも西山形の方にはいろいろ勉強させていただきたいと思っている。

最後に、この活動を一生懸命やる理由ですが、清石会長が最初に「このお酒を国際線の機内酒にしたい」と語られた。その思いを胸に、国際線は難しいと思うが、「つばさ」ぐらいには乗せたいと思って頑張っている。

山形県山形市長 佐藤孝弘：

職員個人としての生活の充実、また市職員としての仕事にも良い影響がある。また、地域にも良い影響があるという事で、まさに地域に飛び出す公務員の事例としては最高のものなんじゃないかと思っている。西山形地区は本当に歴史あるところで、富神山というピラミッド型の聖なる山の麓。そこはパワースポットでもあり、飲めば力が出るお酒だと私は思っているので、ぜひ 1 度お越しいただいて飲んでいただきたい。

司会（佐賀県小城市職員 坂田啓子）：

ありがとうございました。それでは皆様の発表が終わりました。

ここで、会場のみなさんからご質問がありましたらお受けしたいと思います。

山形県南陽市長 白岩孝夫：

田中さんに伺いたい。ポケットマネーってどれくらいつこんでるんですか。

長野県職員 田中 英二：

先程、金額をちょっと申し上げたと思うんですが、多分その 3 分の 1 くらいはつぎ込んでると思います。

山形県南陽市長 白岩孝夫：

1000 万円の 3 分の 1？

長野県職員 田中 英二：

言わないでください。

山形県南陽市長 白岩孝夫：

ご家族的には。

長野県職員 田中 英二：

そうですね。

山形県南陽市長 白岩孝夫：

なんとなく伝わりました。本当に素晴らしい活動で、しかも相性のいい方とお会いできたというのが、それもまた何かご縁だったのかなと思いました。今後とも頑張ってください。

長野県職員 田中 英二：

お金については、松下さんと私と吉本さんのマネージャーさんの 3 人分の旅費と宿泊費と材料費だけの金額。松下さんと吉本さんにはマージンは入っておりません。吉本さんと松下さんには本当に頭が下がらないところですよ。

司会（佐賀県小城市職員 坂田啓子）：

それでビデオメッセージの中で助成金という言葉が出たということですかね。

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

松下さんがぜひ助成金を作ってほしいと言っていましたね。今日来てないので、鈴木会長から阿部知事の方に、その点はちゃんと伝えてほしいと言っておこうと思います。

ご師匠筋にお話をすると、さっと広がっていくと思います。また、長野県さんが吉本さんと連携協定を結んでいるかどうかなんですけど。

長野県職員 田中 英二：

長野県の住みます芸人の「こてつさん」に、長野県観光宣伝部長なども含め、長野県からアルクマの宣伝をお願いしています。私も全国回らせていただいている時に、このような形でアルクマを PR させていただいておりますが、今回栄えある受賞という事になりました。本当にありがとうございました。

司会（佐賀県小城市職員 坂田啓子）：

もうお 1 人ぐらい、ご質問のある方いらっしゃいますか？

山形県寒河江市職員 荒井仁志：

WRN の皆さんにお伺いします。行政組織の中で、音楽という新しい事をする時に批判の声とかがあった

のかと思います。その中で、それに負けないように頑張ってきたエピソードとか、またお仕事を始めてこられて、長野県や県庁の中で後に続くような新しい風が動いているなどがあれば教えてください。

WRN 長野県職員 宮嶋拓郎 :

我々は公務員組織の中に対して「こんなことやってるんだよ」って評価をもらう事はやりたくなくて、外に出して外の評判が県庁に伝わるみたいな意識でやったんで、中には言わずにやってました。

ただ、県の広報担当部署は我々のことを知ってくれて、この制度ができたときに、「こういう制度があるんだけどどう？」という事で、田中さんと同じぐらいのタイミングで県庁内に知られました。

その段階でもう 4 年ぐらやって、結構世のプラスの評価が多かったんで、あんまりマイナスはなかったです。

新しい動きは、僕らが率先して作っていきたいと思っています。さっきのラップに「平成の終わりで迎えたうねり」ってあったんですけど、起こしていきたいと思っています。これからどんどん周りを巻き込んでやっていきたいです。

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾） :

ありがとうございました。それでは、椎川理事長からご講評をお願いします。

一般財団法人地域活性化センター理事長 椎川忍 :

今日の 3 つの事例は、住民の皆さんと公務員の距離を縮めることを見事に実現している素晴らしい例だなと思った。対峙する関係ではなくて、本当の意味で協働できるような関係を築いていこうというのが、地域に飛び出す公務員の最終的な目標だと思う。

今、私たちの組織にもポニーキャニオンの人が来ている。彼らによると、「若い人達はホームページ見ない、Facebook なんかやってない。やるとしたら Twitter かインスタ。だから行政の中身を理解してもらおうとする情報発信は、アニメか歌か動画しかない」って言うんです。それで全国何十の自治体にやっていただいて、それをさらに広めていこうと思う。今日のヒップホップ、こういうことが若い人に訴えかける有効な手段なのかなと。発表の中にもあったように、行政だから公務員だからって真面目にやっていると、一向に伝わらないというもどかしさがある。そういう意味ではすごいイノベーターだと思う。

補助金の話もあったが、3 つの事例はクラウドファンディングに適した活動じゃないかなと思う。後藤さんの活動は、まさにクラウドファンディングになっている。長野県の田中さんの例とか WRN の活動というのは、多分共感を呼ぶ長野県人や、それから病床におられるお子さんを抱えておられる親の方、かつてそういう境遇にあった人達がこれは良いなと思うだろう。

私たち地域活性化センターも、クラウドファンディングを地域づくりに活用しようといういろんな事をやっている。今、プラットフォーム業者と 4 つくらいプロジェクトを検討中だが、プラットフォーム業者の難点は、手数料が高いこと。ですから後藤さんがやってるように、自分たちでクラファン的にやると、手数料が浮くのでとても良

い事例だと思う。

今回は私も勉強になりました。みなさん、今度作る本に書いていただくとありがたい。Facebook で公募しているの、ぜひ応募してください。ありがとうございました。

司会（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

ありがとうございました。Facebook で公募しているそうなので、我こそはと思う方はぜひ応募していただきたい。

【飛び出す甲子園～相棒の意見を聞かせてほしい 表彰式】

発表者には、表彰状を授与。プレゼンターは白岩市長。副賞として、南陽市のラーメン（龍上海のみそラーメン）を贈呈。

田中英二殿、松下笑一殿

井出伊織殿、服田習作殿、三村裕太殿、宮嶋拓郎殿、上野洋輔殿、沓澤栄殿

佐藤孝弘殿、後藤好邦殿、中川源雄殿

表彰式終了後、記念撮影。

休憩

【首長会議】

進行（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

少し時間が押してしまいましたが、これから首長会議を始めさせていただきます。

今回の首長会議では、現在首長の皆さんが取り組む、地域に飛び出す公務員を増やすための取り組みについて、事務局がこの度行った調査結果や、さきほど飛び出す甲子園で発表いただいた相棒の声というものも踏まえて意見交換を行いながら、今後首長連合として何ができるのか、参加首長の皆さんと、またフロアの皆さんとも色々と意見交換をしながら共に考えて参りたい。

それでは初めに施策調査報告として、前回の飛騨サミットで作成いたしました「公務員の福業」ガイドラインの各自治体における活用状況について、事務局から報告していただきたい。

説明（地域に飛び出す公務員を応援する首長連合事務局 三重県職員 西崎隼人）：

それでは、地域に飛び出す公務員を応援する施策調査の結果について報告させていただく。

この調査は、首長連合加盟自治体の地域に飛び出す公務員を応援する施策を取りまとめ、情報を共有することで、応援する良い施策が効果的に広がっていくことを期待し実施している。

資料の 8 ページ以降をご覧ください。

今回は昨年のサミットで皆様の合意を得て制定した「望ましい『公務員の福業』ガイドライン」を参考にしているか、見直しを行ったか、その影響について問うこととし、加盟 61 自治体のうち 45 の自治体から回答をいただいた。

まず、「『公共性のある組織』での副業に関する許可等についてガイドラインを参考にしているか」という質問について、「参考にしている」と答えた自治体は 20（約 45%）、「参考にしていない」と答えたのは 5 割を超える 24 自治体。

「参考にしている」と答えた自治体に対し、どのような点を参考にしているか尋ねたところ、「謝礼等の報酬について、これまで明確な定めがなかったため、ガイドラインを参考に許可を行っている」（山形県南陽市）、「『望ましい公務員の福業』の部分で、許可を認める基準として参考にした」（宮崎県木城町）といった意見をいただいた。

「参考にしていない」と答えた理由の多くは、「すでに定めている基準がガイドラインの趣旨と大きく変わらないため」、「参考にする機会がなかったため」となっている。

次に、「ガイドラインを受けて、副業に関するこれまでの基準を見直す等の取り組みを行ったか」という質問について、「行った」と答えたのは 3 自治体。

「報酬を受けての地域貢献活動への参加の促進」（栃木県栃木市）、「営利企業等従事における申請を必要とする地域貢献活動を例示し、報酬を伴う地域貢献活動を行う場合などを明示した」（愛知県大府市）、「ガイドラインの内容を参考に、令和元年 10 月 1 日から地域貢献活動を行う職員の営利企業等の従事制限の運用を施行した」（宮崎県木城町）。

一方、基準の見直し等は「行っていない」のは、全体の 7 割を超える 33 自治体。

その主な理由では、「すでに定めている基準がガイドラインの趣旨と大きく変わらないため」や「参考にする機会がなかったため」に加えて、「見直しの必要性は感じているのだが具体的な検討が進んでいない」といったものもあった。

見直し等を「行っていないが検討中」なのは、全体の 2 割となる 9 自治体。「職員のやりがいや地域貢献を進める事を人事評価等の参考にしたいと考えており、その際の基準にしたいと思っている。地域内で理解を得られるように議論を深めていきたい。時期は未定」（北海道東神楽町）、「今後、『福業』に係る休暇制度を設けることが可能か研究していく」（山形県南陽市）、「今年度中に他団体の規定を参考に国に準じた指針を作成する」（茨城県石岡市）、「長野県が実施している『地域に飛び出せ 社会貢献職員応援制度』を参考に制度化を検討している」（長野県大町市）など。

次に、ガイドラインがさらに活用されるため、活用しづらい項目や気づいた点を尋ねたところ、「具体的な基準や例が示されれば活用できる」（奈良県奈良市）、「今回のアンケート結果を基に、全国的に許可を与えている事例等を紹介していくとより理解が深まり、望ましいかたちができるのでは」（千葉県いすみ市）という意見があった。

施策調査班の中でも福業としてどういうものを認めているか見せていくことで、それが他の自治体でも参考になっていくのではないかという意見が上がり、今回調査の中で副業の事例を尋ねることにした。その事例

を一覧にしている。

なお、回答が多かった上位 5 事例は、「農業」「不動産賃貸」「講師」「スポーツ指導員、審判員」「各種委員」となっている。

また、北海道東神楽町から「大森・東大名誉教授のコラムの考えに共感しているので、参考にさせていただきたい」とのコメントと、コラムもご紹介いただいたので、全国町村会と大森名誉教授のご承諾をいただき、今回資料として、20 ページ、21 ページに添付させていただいている。

以上、簡単ではあるが施策調査の報告とさせていただきます。

進行（滋賀県湖南市長 谷畑英吾）：

ありがとうございました。事務局から報告があったが、調査結果を受けて首長さん方から感想や、ガイドラインの活用状況、また改善の必要性などについて、順次ご意見をいただきたい。

北海道東神楽町長 山本進：

色々考えながら進めているが、先ほど紹介のあった大森先生の書いたコラム、全国町村会の冊子の中から出ているが、これ見ていいなとすごく思った。

もちろん福業の支援をして職員を支援していくのは良いと思うが、その職員が本当に仕事ちゃんとできているということをオーソライズしていくということが大事。そういう意味では、こういうような考え方はあるなと思っている。やはり人事評価をしながら、こういった事をしっかり制度として取り入れていくということを考えていくのをベースにしたいと思っている。

山形県山形市長 佐藤孝弘：

家業を持ちながら市職員や町職員をやっている方がかなり多い。

本当に農業は多いし、葬儀に参加すると、出てきたお坊さんが市職員だったりする機会も多い。ベースとしてはそういう適度なバランスで、そうしたこともやっていくというものがもともとあるんだろうと私は思っている。

先ほど西山形地区の事例を発表させていただいたが、さらに活発にすることがより良い効果があるわけだから、それをどのように進めていくかということが非常に大事。

ただ一方で、公務員だからという、ちょっと従来型の考えの職員もいると思う。今日の調査結果などを広く周知して、こういう事もできるんだということをみんなでも共有して取り組んでいく。

あとはもう雰囲気作り。そういう事をやっていて、そういう人が変わるとか、ちょっと駄目なんじゃないかというような雰囲気じゃなく、どんどん出ていこうという雰囲気作り。これは極めて大事だと思っていて、私も様々な場面で公務員としての仕事プラス地域とか町づくりとか、一つ別な個人としてのものを持つようにという事は心がけている。

岐阜県飛騨市長 都竹淳也：

福業のガイドラインは、昨年、いい形でまとまったなと思っている。

福業かどうかという話の論点・争点は、結局報酬をどうするかという事と、雇用関係になるならないという所をどうはっきりさせるかというその2点だと思う。その意味では地方公務員法だけじゃなく、わかりやすい形で示されたので良かったと思っている。

飛騨市では、もともとかなり緩くとらえており、実際に職員が報酬をもらうようなケースもあるが、ほぼ今までも全部認めているのであまり議論した事が無い。

それがいいかどうかという事は別にして、別に問題ないんじゃないのという事でずっとやってきており、これ（ガイドライン）によって何か見直したという事はなかった。

ただ逆に、改めて見てみるといろんな活動をしている職員がいて、家業としての農業や不動産の賃貸料のほか、自治会、自治組織の役員、いろんな団体の役員もいる。総合型の地域スポーツクラブの事務局長は、中心的に実際動かしているが、その団体が市の指定管理を受けており、どうなんだみたいな話もないわけではない。

でも組織として受けているわけで、別に彼が個人として受けているわけではなく、市役所の中で何か影響を及ぼすとかいう事がないので、そこについてはいいんじゃないのと。これは別に報酬や従事という事ではないが、それについてもそうやって認めている。

いずれにしても、自由にやってもらうのが一番いいという事で、原則は何も規制しない、何かよっぽどのがあれば規制する、何かの指摘をする。そういう運用が基本とっており、特に職員に対しても、今までと変わることなく、何か問題になりそうな時は言ってもらおうというような感じで取り組んでいる。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

今の発言の中で指定管理を受けている団体の役員という話があったが、例えば今は影響を及ぼしてないかもしれないが、異動先で影響を及ぼすような所に異動した場合などが生じると思うが、そういった場合は想定をしていないのか。

岐阜県飛騨市長 都竹淳也：

想定はしている。そういう職員はたくさんいるわけではなく1人で、異動には気を使う。明らかにそこに関連する所には異動させるのは難しいので、それは人事の中で配慮している。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

というと、飛び出した先に人事が引きずられるという事になるわけか。

岐阜県飛騨市長 都竹淳也：

そういう事。

ただ、どうしても例えば、そこに異動させなければならぬ事情が起こった時には、また本人と相談しなきゃいけないだろうと思うが、今はそこに異動させるという気が全くない。現所属の所で適材だと思っているので、そう大きな問題にしていない。

岐阜県岐阜市長 柴橋正直：

今回ガイドラインを定めていただき、岐阜市としては、ほぼ同じ考えであり、大きな問題もなく、ガイドラインを明確に伝えて良かったなと思っている。

岐阜市は結構件数多いが、ほとんどが市民病院の関係、薬科大学、短期大学で、例えば講演をして講演料をいただいたという話であり、もともとはそこをメインに考えてきたという所が大きい。

平成 30 年度は市民病院だけで 389 件。5000 円以上超えると報告をしてもらうように、事前に許可を得てやってもらう事になっている。

今後、岐阜市としての課題は、事務職がどう飛び出して行くかという事を促していけるようにしたいと思っている。

事務職が現在飛び出している先は、消防団とか水防団とか地域のボランティア、あるいは PTA とか本当に何も問題のないところが中心で、都竹市長のような事に直面した事があまりない。

ただ、この「飛び出す公務員」を積極的に進めていくと、そういうことも今後起こりうるだろうという時に、こういった会で、どういったルールで運用するのがいいのかというような事を厳密に基準を作っていけると、安心して背中を押して行けるのではないかと思う。

宮崎県木城町長 半渡英俊：

木城町は人口が 5000 人の町であり、消防団やスポーツ少年団、自治会等々、それからもちろん農林業にも従事している職員というのはたくさんいる。これが当たり前の世界。しかし、私もこの場に 3 回参加し、年々この公務員の活動のフィールドが無限大だということを知られた。

そのために私たちがしっかりと応援する、あるいは支えるためには、やっぱりガイドライン、基準を作ってやっていくべきだろうなと感じていた。

昨年ガイドラインを示していただき、それを元に、今年度 10 月 1 日から新たな基準を設けたところで感謝している。無限大のフィールドであるので、しっかりと支えていきたい。

山形県南陽市長 白岩孝夫：

南陽市ではガイドラインに沿ったような形で現在も運用されているという事で、おおむねガイドラインはこの通りで特に直すところはないんじゃないかと思っている。

柴橋市長もおっしゃったように、地区長や消防団、PTA など、何の問題もないものについては許可すら要らないんじゃないかというような感じ。ただ、こここのところの働き方改革で、学校現場において先生方のサポート、地域の応援がより必要だというふうに変ってきており、部活動の応援をしている市役所の職員についての報酬などもこれから変わってくるかという気はしている。

今回色々アンケートとっていただいた、具体例、認めている副業の事例の回答取りまとめ、これ大変素晴らしいな、助かるなと思っている。これをさらに、この中でもここはどうなんだろうと皆さんが迷っているような事例があると思う。迷わないものについてはいいが、迷っていて、しかもこれ幾らくらいまでだったらいいんだろうみたいな。それも全国いろいろだと思う。その辺も問題になりそうな所についてはちょっと掘り下げて事例を収集して、それをみんなで共有できたらいいかなと思った。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

今の白岩市長の指摘はまた後ほど、事務局と相談させてもらいながら、さらに深掘りができるところについては深掘りさせていただければありがたい。

では、会場の中からご発言があれば。昨年飛騨サミットの時に策定したこの福業ガイドラインに対して色々な思いや、現行の副業制度についてこういったところに少し不備があるんじゃないかとか、ご意見があれば承りたい。

山形県酒田市職員 松永隆：

首長の皆様にご質問。このガイドラインに載っているような福業をしている職員のプラス面での評価について、お考えをお聞かせいただきたい。

私も研修講師や地域づくりワークショップのファシリテーターとしてお声掛けいただいて、少しだけ飛び出しているが、全くのボランティアで、職場にも何も断らずに休暇を使って行っている。それは、多少の報酬をいただくために、面倒な手続きをして人事部門に管理されるより、黙ってやってしまった方が早いからだ。

福業する公務員の多くは報酬を得るために行うのではないと思う。大森先生のコラムは、副業が本業に与える悪影響について管理の視点が必要だと述べられているが、プラスの評価をしていただかないと、わざわざ手続きして福業に取り組む必要性が全く見えない。そのような点をどのようにお考えか、お聞かせいただきたい。

岐阜県飛騨市長 都竹淳也：

プラスの評価、なんていうか制度的に評価するという事もあるが、そういう職員は結構目に付くので、私自身は、活動してまちの色んな行事で会った時、声をかけるようにしている。よくやってるなとか、いい事やってるなど。

私、結構市役所の中をぶらぶら歩き回っているので、行ってこの前あの行事どうだったとか、アクナレジメントとか認めてやる、そういうメッセージを送ってやるってことがプラスの評価じゃないかなと思っており、それは心がけてやるようにしている。

実際に私が出る行事で結構中心になってやっているような連中が何人かおり、そうしている。逆にそうする事によって部長や課長が同じように認めて声を掛けてくれればいいなと思っている。

そういう雰囲気を作ることがプラスの評価ではないかなと思う。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

ふらふらと地域を回るのは多分岐阜市とかだと大変じゃないかと思うが、いかがか。

岐阜県岐阜市長 柴橋正直：

大変ですが、結構こまめに地域には出て行くようにしている。色々な機会に職員の見えなかった一面が見

えるっていうのは、この飛び出す公務員の良い所だと思う。

実際に具体例を挙げて言うとうわかるので控えるが、例えば上司の人事考課があまり芳しくないのはなぜかと気にしていた職員が、意外なところで活躍をして、こういう分野には思いがあってアクションを起こしているんだなという事で、私なりに人事で処遇してチャンスを与えると生き生きとやってくれる。そういう事は公務員としての仕事の中ではどうしてもバイアスがかかったりして見えないけど、一人の人間として活動している姿が見えるのは飛び出す公務員の良さじゃないかと。

何でも私がいろんなところに行く時にどんどん見えるようにアピールして欲しいなと思うが、今日はうちの職員が一人しかいないので、ここで言ったことは秘密にしておいて欲しい。(笑)

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

残念ながら、公人が公の場で言ったことは秘密にはならない。(笑)

今の発言にもあったが、やはりこういう個別の具体例に沿って判断をしていくのが非常に難しい部分もあると思う。それは昨年飛騨サミットで一定のガイドラインを作らせていただいたが、さらにこの具体例をもう少し掘り下げていくことで、もう少し精緻に落とし込むことが可能かとも思う。

また事務職がどう飛び出すのかが非常に難しいところだが、長野県の方々が多分間接部門の事務職の方ではないか。

現場と近い方々がたくさん活動されているが、一番頭の固いところをどう柔らかくするのかということがこれから難しくなってくるんじゃないかと思う。

それと佐藤市長がおっしゃったように、首長自体も外に出ていく必要があると思うので、もし今後ガイドラインを変えていくのであれば、首長も出て行けよということをここに書かないと、評価する側もちゃんと評価されないといけないのかなという気がした。こういったところを少しまとめのようにさせていただけたらと思う。

それでは、続いて「飛び公」を増やすための各自治体の取組の紹介に移らせていただきたい。

まず事務局から三重県庁の取組の紹介をいただきたい。

説明（地域に飛び出す公務員を応援する首長連合事務局長 三重県職員 高野吉雄）：

この議題は、今回 9 回目を迎え、事務局で議論をする中で、どれくらい各団体の取組は進化しているのかを聞きたい、それをまた参考にして進んでいくといいねという意見があったことが背景にある。

その上で三重県からは、職員が飛び出しやすい環境づくりの取組をご説明したい。

これも事務局で話す中で出たのだが、地域に飛び出す活動をしようとした時に、「年休を取らなきゃいけないが取りにくい」あるいは「年休は取らずに時間外に活動するが、みんなが一生懸命残業している中で自分だけ早く帰るのに気を使ってしまう」というようなことがあり、参考になればということで説明をさせていただきたい。

鈴木英敬知事は、平成 23 年 4 月に知事に就任している。

今日ご紹介するのは、ワークライフマネジメントの推進の取組。

三重県では、「人材の育成方針」を平成 24 年に作り、それまでの取組を踏まえて、平成 28 年に改定した。その改定をした中で、改定の考え方の中に一つこういう事を入れさせていただいた。

職員に求められる人材像としては、公私にわたりアクティブシチズンとして自立し、行動するための主体性を持ってほしい。

さらにその中で、現場を重視して関係者と向き合い、思いを共有し、自ら積極的に関係を構築して欲しいというようなことを明らかにした。

そういったことを前提にして、このワークライフマネジメントの推進を見ていただきたい。

知事、部局長、所属長を推進責任者として労使協働で定めた方針に基づいて推進していくというのが決まり。三つの取組成果、ワーク・マネジメントの推進、ライフ・マネジメント支援の推進、それから意識・組織風土改革の推進という取組をしている。

今日これからご紹介するのはワーク・マネジメントの推進の取り組みである「ワーク・ライフ・マネジメントシート」というもの。

(以下、シートを見ながら説明)

成果は結構出ているという事で示させていただいたのがこの黄色い部分。

特に知事がよく言うのは、右端の男性の育児休業取得率推移。

知事部局の男性の数値として、ここまで今進んだんだよという事を特に強調している。

「ワーク・ライフ・マネジメントシート」を毎年度初めに、職員が一人一人自分で作り、ワークそれからライフ、それぞれで何を充実させたいということを決めてもらう。

その上で、タイムマネジメントは当然推進していくが、チームワークや支え合いとあるように、この中で例えば自分の計画に対して職場で支えて欲しい事は、何と書いていただく。

あるいは支えてもらうだけじゃ駄目で、自分はみんなのためにこんな事が貢献できるというふうに書いてもらい、年度初めに所属長と班長が一人一人面で面談する。

例えばライフのところ、一番上に「地域活動」と書いているが、自分は今年はライフでは、地域活動、例えば地域に飛び出してやりたい、あるいは飛び出さなくても自治会の活動を頑張りたい、そういう事をより具体的に聞き取りをする。そして、双方向でじゃあわかった、その方向で頑張る、こちらもマネジメントしますという事をやる。

そして、半期ごとに中間と期末で面談をまたやり、この部分うまくいったね、もうちょっとこのところはやってほしいねと。例えばこの時期に自分はこういう活動をしたいのでなかなか残業できない、配慮してほしいと。

わかった、じゃあそこは配慮するけど、その活動のピークが終わったら、違う人のピークが来るから、そこを手伝ってくれる？とか。そんな議論をして進めて行くのが、この「ワーク・ライフ・マネジメントシート」の取組。

職員アンケートの全体満足度は、平成 24 年度から比べると 2 ポイントから 3 ポイントくらい高くなっており、何とか推移しているというところが出ています。全てが全てその地域に飛び出す方の応援にはならないが、例えば、子育てを頑張りたい人も、介護を頑張りたいという人もおり、色々ピークというか、自分の人生の中のそれぞれのステージにあわせてワークもライフも充実できるようにする。

それをみんなで支えようという仕組みを作ってきた、というのが今の三重県の取組である。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

三重県庁は、地方自治体の行政改革、質の改革に取り組んだトップランナーのようなところであり、そういったものが脈々と続いているという事を今の発表の中でも感じさせていただいた。

三重県の話も含め、各自治体でこういった事に取り組んでるということがあれば、ご報告をいただければ。手が上がらなければ、半渡町長。

宮崎県木城町長 半渡英俊：

こういった取組をまだやってないところであり、ガイドラインをもとに、働きやすい環境、飛び出しやすい環境づくりに着手をしたということであり、先ほどお聞きしながら勉強になったというのが正直な感想である。

岐阜県岐阜市長 柴橋正直：

私も昨年度から地域に飛び出す公務員を応援する首長連合のメンバーに入れていただき、取組を進めている。例えば、3年以上地域に飛び出している職員については、ピンバッジを授与し、職員の名札に着けてもらうようにしている。

また、非常に積極的に地域に貢献している職員を、全部署の前で表彰をしたこともある。

職員が自分たちで色々な学びを深めるための自主研究グループへの支援ということで、講師を呼ぶ際の、謝礼について支援をすることも行った。ただ、昨年度スタートして1件なので、今後は遠慮なくやってほしいと思っている。

三重県の資料を拝見して、私もすごいなと思った。一方で、これだけの事を実施した時に、満足度はもっと上がっても良いと思う。何が問題で満足度が上がらなかったのか、何を職員が求めているのかということにも大変興味があるので、ぜひ教えていただければありがたい。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

事務局として、回答はあるか。

説明（地域に飛び出す公務員を応援する首長連合事務局長 三重県職員 高野吉雄）：

満足度については、分析を部局別や、地域別に行っている。しかし、申し訳ありませんが、今回は詳細なデータを持っていないため、お示しすることが出来ません。

例えば、災害対策を担当する部局においては、宿直等で年中忙しいということもあって満足度が上がっていかない要因になっているのではないかと。また、業務の忙しさもありますが、首長様からお話がありましたように、今の自分のポジション等に満足できているか等の要因において、トータルでこのような状況になっていると考えています。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

それでは白岩市長。

山形県南陽市長 白岩孝夫：

三重県の取組は素晴らしいなと思った。

南陽市も飛び出す事を推奨するに当たって表彰はしている。地域活動は申告してもらい、年末に職員表彰の機会を設けて表彰しているが、やはり首長が素晴らしいと言うだけでは足りないのかなと感じた。組織全体が、特に人事評価する部署がそれを評価する仕組みがないと、首長はコロッと変わったりするので、継続性がなくなり、職員の皆さんから制度として信頼されないという事があると思う。

今年度の取組としては、今は未婚の方が多いで結婚推進の事業を、企画・準備していただき、まさしく今問題になってるドストライクの所を、その年代の人たちが自分たちで考えた方式で解決に当たっていく。それを応援している。こうした具体的な事業を通じて参加していただく事で当然それを評価して、それが「飛び公」の増加に繋がればなと思っている。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

ありがとうございました。では都竹市長。

岐阜県飛騨市長 都竹淳也：

今、三重県さんにご紹介いただいた、このシートよくできてるなと思って拝見していた。

働き方改革で時間外のキャップが決まっているため、今年はしっかりと毎月単位で見ているが、時間外の多い所と無い所と極端になっている。個々人や所属の中でのワークライフマネジメント、もしくはワークライフバランスで、この点について考えてもらうということもあるが、組織全体から見るとやはり時間外なり行事など色んなものの状況を見ながら、データに基づいて人事配置しないと、大きく影響すると思っている。セットでしなければいけないなと思いながら伺っていた。

飛騨市役所は岐阜県内 21 市の中で年休の取得率が一番低く、努力はしているが、伸びてこない状況である。職員に聞いても、休まなくても困っていないという回答が返ってきており、なぜなのかは詳細には分かっていない。この話を参考にさせてもらいながら、もう一段考えてみたいなと思った。ちょっと感想めいたことで恐縮です。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

感想で十分です。ありがとうございます。

それでは佐藤市長よろしく申し上げます。

山形県山形市長 佐藤孝弘：

ワークライフバランスについては、私も就任以来取り組んでいる。イクボス宣言も行い、男性職員の育児休業の取得率向上の取組も進めて、大分成果も出ていると感じている。

一方で、三重県さんの発表であったワークマネジメントについては、山形市ではまだまだと認識している。こ

のシートも参考にしながら、方法を考える必要があると思った。

地域に飛び出すという事については、私としてもあるいは人事としても、マイナスに捉えず、推奨している。地域に飛び出している市職員を見てみると、公務員としての仕事にも良い影響が出ていることが多いと思っている。

今、絶対必要なのは市民の皆さんとのコミュニケーション能力。いろんな面でコミュニケーション能力が全国的に課題になっているが、地域に飛び出している方は、市民の皆さんとの会話、やりとりのスキルが高いと思っているので、おのずと人事評価にも出てくると思っている。

さらに積極的にプラスの評価をしているという所があったが、もう少し一歩前に進める必要があると考えており、活動を申告してもらおうという話があったので、山形市としても積極的に取り組む事でより良い効果が出てくるのではと思った。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

ありがとうございました。そしたら山本町長さん。

北海道東神楽町長 山本進：

人生に対する価値観みたいなものを共有をしながら、仕事と生活のワークとライフのバランスを取るというのは、すごく良いことであり、時代に合ってきたという事だと思っている。

東神楽町でも、地域に出ることを奨励しているし、人事評価の面談の中でも、今年は地域に出て何をしたのかを問うという事をしている。

しかし、やりすぎると萎縮してしまうということも少し思っている。例えば役場の職員採用試験の時では、「地域でこういう活躍しなければならぬと思うが、君はどう思う」と言うと「やります」と言うが、何年か経過すると本当にするのかという話をされるため、何か強要されてると思っているのかなと考える所ではある。

そういう意味では、高い次元の中で人生の価値観みたいなものを、しっかり持っているような感覚でなければ駄目かなという感じで思っている。そのような研修等も少し取り入れながらやっていきたいと思っている。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

山本町長さんのご指摘は非常に重いご指摘である。スーパー公務員というのを一生懸命作り、育て、そこを目指そうということをおそらく今まで全国の首長はやってきたと思う。実はそのスーパー公務員以外の公務員が支えているということが非常に大きいところだと思う。

先ほどコミュニケーション能力が高まるということもおっしゃっていたが、コミュニケーション能力が高くない職員でも、きちんと事務能力で支えていたりする。評価の観点というのをどこに置くのか、全部の職員に同じような評価でいいのかという所もおそらくこれからはカスタマイズしながら考えていく必要も出てくるのではないのか。

評価をする際には、最低限のラインで評価をする、それプラスなにがしかを乗せるというようなことでないと、それを最高ラインに引き上げてしまうと、いろいろ支えている公務員の頑張りが評価されにくくなるという事もあるのかなというのは、先ほどから伺っていて感じた。

目立つ公務員ばかりを支えていくということも一つあるが、その目立つ公務員が頑張ろうとした時に、それを周りで支えている公務員たちもたくさんいるという部分もあるので、そういった所についても、支えている人たちにいかに光が当たるような事をするかについても、考える必要があるのではないのかと思う。

あともう一つ、働き方改革の前に女性活躍というのがあったが、佐藤市長さんおっしゃったように、3年前に山形でイクボスサミットをした中で、それぞれのワークライフバランスをきちんとしていかなければならない、という流れになってきたと思う。

この首長連合は発足当初から、福業やワークライフバランス、今の政権の中で推し進められていることを先取りしながら、いろいろな所で公務員の皆さんが働きやすいような職場環境を作っていく事を、首長サイドから発信をしていくのが発足の目的だったと思う。そういったところも今後議論をしていく必要があるのではないのかなと思わせていただいた。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、総合教育会議ができたので、首長も教育行政には一定の関与をする、また責任を持つということになっている。これまでは教育現場におけるワークライフバランスや、働き方改革ということには関与してこなかったが、今後は積極的に関与していく必要があるという事なので、そういった面でもいろいろと議論をしていく必要があるのではないのかなと思っている。

さらに今後、この首長連合として何ができるのか、もしくは首長の皆さんで何かしたいことがあればご意見を承らせていただければと思う。

北海道東神楽町長 山本進 :

首長が地域に飛び出すという事を応援することや、そういう首長を増やすことが大事だと思う。

北海道の鹿部町という函館に近い漁業を中心とした町では、町長が福業の基準を変えて、漁業の応援も含めて福業する事を認めようという動きもある。それ以外にも地域貢献をやろうとしているという話を地元の新聞で見たので、鹿部町の町長に参加を打診したところ、来年度以降に参加を検討するという意見をいただいた。仲間を少し増やしていければなと思っている。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾 :

ありがとうございました。最初のメッセージで会長が、加盟首長が増えてますとおっしゃったが、さらに増やしていく必要があると思っている。この取組に賛同していただける首長をそれぞれリクルートしていただければありがたい。

では特に無ければ、会場から、今後の首長会議の場で議論してほしい事、ご意見ご発言があれば承りたい。

滋賀県東近江市職員 横川豊彦 :

滋賀県東近江市の横川といいます。

先ほど谷畑市長さんが教育委員会のことを言っていたのでコメントしたい。教員、幼稚園保育園、

小学校中学校の先生の残業が多いということで、今年は働き方改革を担当しているが、やはり長時間残業、100 時間 200 時間されている方もおられる。そういった方に個々に会いに行き、「なんで帰らへんの」と聞くと、「帰っても仕事以上に楽しいこと無いやん」という返事がよく返ってくる。

給特法の中でも創造的な仕事だから残業は出ないと書いてあることを、逆の捉え方で自分がしたいことは無限にできると受けとめているようである。

だから、今おっしゃる福業という形でもっとしたいことを作ってあげないと、本当に仕事しかしてこないという人間になってしまうので、市長部局の方からも働きかけて地域に飛び出す公務員っていうものがあるんだから、仕事も大事だけど違うところで自分を試すとか学ぶとか、楽しい事もあるんだという働きかけがあると、教育現場の長時間労働も無くなるのではと思って話を聞かせていただいた。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

ありがとうございます。教員の働き方改革で何かやっておられるという方おられますでしょうか。

北海道東神楽町長 山本進：

東神楽町は、小学校 4 校の共通事務を 1 校で全部まとめて実施する共同事務室の取り組みを始めている。先生がすべき仕事はもちろん先生に行ってもらうが、誰でもできるような仕事は取り上げるというような考え方で結構やろうと思っている。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

横川さんがおっしゃったように、先生たちは非常に多忙で、朝は 7 時半ぐらいから学校周辺や校門で子どもたちが登校するのを見て、その後学校の中でも、子どもたちが帰るまでずっと様子を見ていて、その後残業している。残業代がつくという感覚は無いのでいつまでも残業してしまう。

そこで、湖南市では出勤簿にハンコを押すのではなく、パソコンを開けると自動的に出勤になるようにして、勤務時間を全てコントロールしている。また学校への電話については 6 時以降は通じないようにすることで、地域から様々な声が入らないようにして、その後は教育委員会で全部受けるようしている。

いろんな働き方改革をしながら、先生たちの次のライフの目標を探してあげなければならないという時期に差しかかってきているのかなと思う。

また、先程から色々なご意見をいただいたが、この地域に飛び出す公務員の首長連合が果たしてきたこれまでのワークライフバランスや、また福業の推進という事については、先行しながら取り組ませていただけたと思っている。

今後も、地域社会の中で課題となっていることを掘り起こしながら、公務員の皆さんが働きやすく、またスキルアップをさせながら、地域に還元していけるような形での知見の高まり、そしてそれを共有化していければと思うので、今後とも、引き続きよろしくお願い申し上げたい。

それでは首長の皆さん、そしてまた一般参加者の皆さん、ありがとうございました。これで締めさせていただきます。

司会（佐賀県小城市職員 坂田啓子）：

大変内容の濃い首長会議でした。ありがとうございました。最後に、今回のサミット開催地であります白岩南陽市長から「南陽宣言」を行っていただきます。

山形県南陽市長 白岩孝夫：

南陽市には結城豊太郎先生のほか、同じ苗字で結城よしをさんという偉人もいます。「内緒、内緒、内緒・・・」という、戦前に日本中で歌われた童謡を作った方が結城よしをさんだということを踏まえてお聞きいただきたい。

【南陽宣言】

私達は地域に飛び出す公務員を応援します。

住民との協働の実現を図るため、私たちは時には一緒に、多くの場合はそれぞれの責任と判断において公務とは別に、プラスワンで一住民として役所を飛び出して、地域で様々な活動を行っている公務員、すなわち「地域に飛び出す公務員」への応援施策を講じたところであります。

本日、私たちはここ南陽市でこの地が生んだ偉人結城豊太郎翁の信念、「故郷は国の本なり」を受け継ぎ、故郷の発展のために積極的に地域に飛び出し、尽力している公務員をはじめ、全国各地で熱い思いを持って行動している公務員と、そのパートナーである地域住民の方々や応援施策を実施している首長仲間から多くのことを学びました。

今後とも、私たちは飛び出す公務員にとって「あったけえ首長」として応援施策を充実させるとともに、これを内緒、内緒、内緒の話にすることなく発信し、切磋琢磨する事で一層進化させていくことを宣言します。

公務員よ！飛び出せ！やり出せ！頭出せ！

以上です。

（拍手）

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

ただいまの拍手を持ちまして、この宣言の採択とさせていただきます。終わりにあたり、次回サミットの開催地を決めなければなりません。次回開催地として立候補される自治体はございますでしょうか。

（会場から挙手あり）

奈良県生駒市職員 稲葉淳一：

奈良県生駒市長の小紫雅史の代理の、生駒市役所の稲葉と申します。来年のサミットを奈良県生駒市で開催させていただきたい。大阪から 20 分くらいのところを生駒市役所がありまして、ベッドタウンとして発展してきた中で、今、脱ベッドタウンを掲げて、いろんな先進的なことに取り組んでいる自治体です。最高のおもてなしをしたいと思っておりますので、皆様ぜひお越しください。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

ありがとうございます。来年は生駒市さんにお世話になる事といたします。立候補いただいた生駒市さんに感謝を申し上げたい。また、各自治体の皆さんのお力添えを賜りたい。

毎年、次の開催地を選ぶのが大変なので、今年はその次も選んでおきたい。令和 3 年度のサミットの開催地として立候補される自治体はございますか。

宮崎県木城町長 半渡英俊：

令和 3 年度は宮崎県の木城町でやらせていただきたい。

木城町は人口約 5000 人。小さくてもキラリと光る町づくりを目指している。一つだけ自慢を申し上げますと、15 歳以下の年少人口が県内でもトップクラス。皆さんが来やすい環境作りをやっていきたいと思うので、ぜひ令和 3 年度、宮崎の木城町にお越しください。

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

ありがとうございます。

来年は生駒市さん、そして再来年は木城町さんということで開催地を決定してもよろしいか。

(賛成の拍手)

ありがとうございます。それでは満場一致で 2 ヶ年分決定させていただく。

以上をもちまして、この首長サミットのコーディネートの役を終えさせていただきたい。皆さんご協力ありがとうございました。

(参加者全員で写真撮影)

滋賀県湖南市長 谷畑英吾：

これをもって、第 9 回地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミットを終了いたします。皆さん、ご参加ご協力ありがとうございました。